

2014.4.17 ~ 21

## ネパール渡航報告書



## 1. 渡航目的

去る 2012 年 8 月に開催された世界アマチュアオーケストラフェスティバルイン静岡 (JAO 主催) に、クレッシェンド・インターナショナル・オーケストラ (ネパール) の創始者であるビドゥア氏が参加され、その時以来、ネパールと各国並びに NPO-WFAO との交流が始まった。

このたび、ビドゥア氏から弦楽器、弦、松脂等の支援を要請され、NPO-WFAO のスタッフが持参により寄贈するため、ネパールへ渡航することとなった。

また、ネパール建国以来、初めてとなるアマチュアオーケストラの演奏会にも参加することとなった。

## 2 寄贈楽器

寄贈楽器は、JAO を通じて全国の会員に呼び掛け、現在使用されていない又は壊れている中古の楽器を寄付していただいた。それらの楽器は、NPO-WFAO の負担により使用できる状態に調整・修理した。

寄贈楽器等は以下のとおり。

- ・バイオリン(4/4 サイズ) 4 本、弓 4 本
- ・バイオリン(1/2 サイズ) 1 本、弓 1 本
- ・バイオリン(1/4 サイズ) 2 本、弓 2 本
- ・バイオリン(1/8 サイズ) 2 本、弓 2 本
- ・ビオラ (4/4 サイズ) 1 本、弓 1 本
- ・その他 (松脂、弦、ピッチフルート(音程笛)、サウンドポストセッター(魂柱立て))

## 3 NPOWFAO 参加者

森下喜久子 (演奏) 小野田真稔、小野田恭子、寺部信行、平松治生 (演奏)

## 4 海外参加者

ベルギー : アレックス・ベベーレン (指揮・オーボエ、WFAO)

ドイツ : ユーディット・リュウディガー (チェロ)

イタリア : トマツソ・ナポリ (バイオリン) ラファエル・ビグノツソ (ビオラ)

日 本 : さかはし矢波 (指揮・フルート、東京フィルハーモニー交響楽団)

韓 国 : ユン・キュン・バク (バイオリン)

台 湾 : 山路 譲 (指揮、WFAO)

## 5 行 程

4/17(木)

セントレア 9:28 離陸 CX533 12:27 着陸 香 港

香 港 18:00 離陸 KA192 (ダッカ経由) 21:46 着陸 カトマンズ

4/20(日)

カトマンズ 23:40 離陸 KA191 (ダッカ経由) 4/21 7:16 着陸 香港

香 港 10:24 離陸 CX536 15:00 着陸 セントレア

## 6 宿泊先

カトマンズ ゲストハウス

Kathmandu Guest House, Thamel, Kathmandu, Nepal

## 7 内容

### (1) リハーサル

日時：2014年4月18日(金) 10:50～18:00

会場：Nepal Children's Organization, Bal Mandir, Kathmandu



リハーサルは、4月14日(月)から既にベバーレン氏を中心に始まっており、15日(火)には、山路氏、さかはし氏らが参加し、NPO-WFAOからは、森下喜久子、平松治生が4月18日(金)から参加した。



演奏曲目が多い(全17曲)のと、ボーイング付け直し、プルトがまだ確定していないこともあって、いろいろ混乱しており、18日は午後6時まで練習した。

1stバイオリンのメンバーの中にはバイオリンの指導者もあり、個人的な演奏技術は、かなり高い。

しかし、アンサンブルについては、調弦、アインザッツ、旋律に対する伴奏パートの音量、オーケストラ全体としての強弱の付け方など、オーケストラとしての技術力の向上が望まれる。

練習会場には、計画停電のせいか電気を点けず、トイレの水も出なく、不便を感じたが、全体的な印象としては、個人個人の演奏に対するモチベーションが高く、休憩時間の短さや練習時間の延長など全く気にせず、音楽をすることが楽しくてたまらない、という感じで、今後のネパールを背負うアマチュアオーケストラとしての成長が期待される。



ラとしての成長が期待される。



(2) 駐ネパール日本特命全権大使主催夕食会

日時：2014年4月18日(金) 18:30～21:00

会場：The Dwarika's Hotel 「クリシュナルパン」



小川大使が夕食会場として選ばれたこのホテルは、1年半前に大使が初めてネパールに赴任してきた際にこのホテルを訪れた時、その建築様式（レンガ造りの建物を飾るネワールの伝統工芸品である木彫りの窓枠や柱）、庭園に深い感銘を受けた思い出の場所であることからここを選んだというお話であった。

このホテルの建築、客室インテリア等は、歴史ある寺院や家屋が壊されていくのに心を痛めたホテルの創始者ドゥリカ氏が、長年にわたって集めてきたコレクションである。



ドゥワリカホテル内レストラン「クリシュナルパン」にて  
前列左から、森下、小川大使、さかはし、平松  
後列左から、小野田夫妻、山路、寺部、武藤一等書記官

小川大使との歓談は、美味しい料理と共に、ネパールの経済、文化など、大使のお人柄や博識が伺える楽しいお話に、あっという間に時間が過ぎた。

なお、小川大使がこの会を催した理由は、草の根外交として、今回、さかはし氏からはリコーダー250本、NPO-WFAOからはバイオリン等の寄贈に対するネパール国民に代わっての感謝の気持ちとおっしゃっていた。

(3) 演奏会

日時：2014年4月19日(土) 17:10～

会場：Tribhuvan Army Officers Club, Bhaurakan, Sundhara, Kathmandu  
記念式典(第一部：功労者表彰、第二部：演奏会)



ネパール建国以来初めてとなるアマチュアオーケストラの演奏会は、教育界の功労者を表彰する記念式典の第二部として行われた。

演奏したのは、以下の17曲である。

- 1 National Anthem of Nepal (Amber Gurung)
- 2 Impromptu No.5 and No.6 (Jean Sibelius)
- 3 Ukali Orali Haruma (Nati Kaji)
- 4 Gabriel's Oboe (Ennio Morricone)
- 5 Naulakh Tara (Amber Gurung)
- 6 Fantasia on "Greensleeves" (R. Vaughan Williams)
- 7 Concerto Grosso in A minor, Op.3, No.8 (Antonio Vivaldi) 1st movement
- 8 Sayapatri (Marigold) (Amber Gurung)
- 9 Suit No.2 in B minor, BWV 1067 (J. S. Bach) Polonaise, Menuet, Badinerie
- 10 Melodies from Everest (Gopal Yonjan)
- 11 Grand March from "Aida" (Giuseppe Verdi)
- 12 Minuet in G (L. V. Beethoven)
- 13 Silu (Unknown: Newari Traditional)
- 14 Concert for Guitar (Antonio Vivaldi) 1st movement
- 15 Divertimento in D major (W. A. Mozart) 1st movement
- 16 Chyangba Hoi Chyangba (Nepali Folksong)
- 17 Raato Ra Chandra Surya (Amber Gurung)







#### (4) 楽器贈呈

日時：2014年4月19日(土) 21:45～

会場：North Field Cafe, Thamel, Kathmandu



演奏会終了後、カトマンズゲストハウス近くのレストランで楽器の贈呈を行った。また、小野田氏よりビドゥア氏へ、魂柱立ての実技指導も行われた。弦楽器の修理道具の無いネパールにとっては、大変有益な道具になるだろう。



ビドゥア氏のお礼のスピーチは、今後、この国のアマチュアオーケストラを背負っていく若きリーダーらしい、心のこもったお礼の言葉と将来に向かっての所信表明を表した、頼もしいスピーチだった。

今後も、NPO-WFAOは、アジア地域のアマチュアオーケストラの支援を始め、世界中のアマチュアオーケストラとの交流に貢献していきたい。

(5) リコーダー贈呈

日時：2014年4月17日(木)、19日(土)

贈呈先：カトマンズ市内の小学校



さかはし氏が個人的に集めたリコーダー250本が、在ネパール日本大使館の武藤一等書記官、山路氏、ビドゥア氏の立ち会いの下、カトマンズ市内の小学校へ贈呈された。(楽器の運搬については、さかはし氏と山路氏の宿泊先のオーナーのご厚意により、運んでいただいた。)

上記写真の子どもたちの笑顔からも、自分の楽器を持てるという喜びが伝わってくる。



楽器の贈呈だけではなく、日本古謡「さくらさくら」の曲を使い、リコーダーの演奏方法についても実技指導され、1時間半ほどで、多くの児童がなんとか演奏できるまでになった。

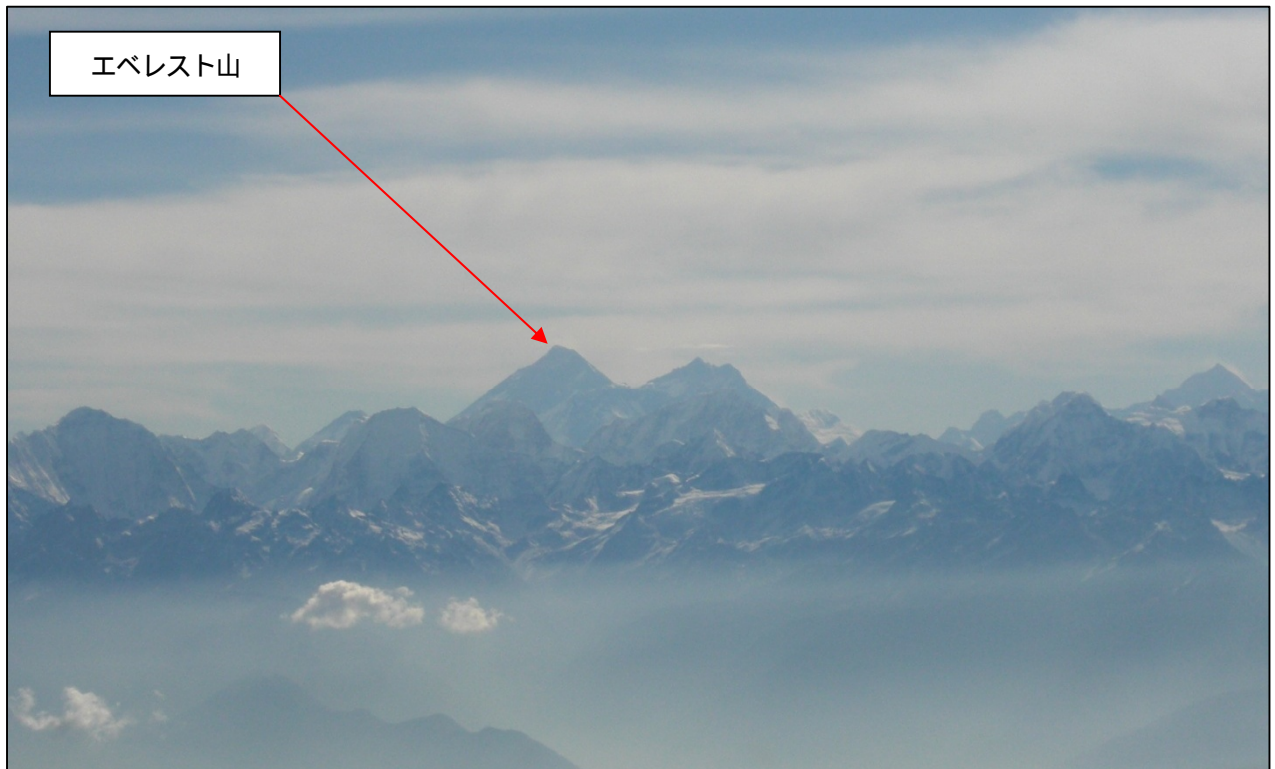


## 別記

最終日は、飛行機の出発まで時間があったので、ネパールの雄大な自然と豊かな文化に触れ、ネパールの理解を一層深めることとした。

### 1 ヒマラヤ山脈

世界最高峰のエベレスト山(サガルマータ)を始め、8,000m級の名峰が連なる世界遺産(自然遺産)であるサガルマータ国立公園を、上空から視察した。



神々の住む氷の世界。





## 2 ボダナート

世界遺産（文化遺産）のネパール最大のストゥーパ（仏塔）があるボダナートは、カトマンズの東約6kmに位置する。古くからチベット仏教徒の主要な巡礼地であり、世界有数のチベット文化の中心地となっている。



ストゥーパは、それ自体が曼荼羅の構造をなし、地、水、火、風、空という宇宙を構成する5大エネルギーを象徴している。また、台座=瞑想、ドーム=すべての煩惱から解放された無の境地、基部と塔=涅槃にいたるまでの13の段階として、ブッダの悟りと仏教の本質を表現しているとも言われる。



「オムマニベメフム」と言う真言が刻まれたマニ車を回しながら真言を唱え、ストゥーパを右回りに回る。



### 3 ダルバール広場

世界遺産（文化遺産）であるダルバール広場（ダルバールはネパール語で「宮廷」を意味する）には、見事な宮殿や寺院が立ち並んでいた。



写真左側の塔はナラヤン寺院で、17世紀末にパールティベントラ・マッラ王により建てられた。

右奥の塔はシヴァ寺院で、17世紀末のマッラ王朝下に、バクタブル皇太后により建てられた。



左の写真は、シヴァ神の化身の一つである恐怖の神、カール・バイラヴの石像である。人間の体の上に乗り、刀を振り上げ、生首を持っている。

カール・バイラヴの前で嘘をつくると即座に死んでしまうと信じられており、かつてはこの像の前に容疑者を連れてきて罪を自白させていた。

左下の写真は、ハヌマン・ドカと呼ばれる旧王宮内部の広場。「ハヌマン」とはヒンドゥー教の猿の神、「ドカ」とは門のこと。右下の写真は、旧王宮入口で、ハヌマン門。左側に赤い布をかぶせられたハヌマン像がある。







左上の写真は、女神クマリの化身として崇拝される少女が住む「クマリの館」で、左下の写真は、その中庭である。

クマリの館は、1575年にジャヤプラカーシュ・マッラ王により建てられたと言われている。

クマリは、ネパール仏教徒の僧侶カーストであるサキヤの家族から、初潮前の、けがや病気の跡の無い、美しく利発な少女が選ばれる。選ばれた後は、両親のもとから引き離され、神としての振舞い方を教え込まれる。現在も、日常的にクマリの館に住み、人々に繁栄と成功の力を与えると信じられている。

#### 4 カトマンズ市内の様子

市内中心部の主要な道路は舗装してあるが、大通りを外れたり、中心部を抜けると未舗装が多く、道路沿いの商店は、砂埃を払うため、頻繁に掃除をしていた。

狭い路地でも、人、自転車、オートバイ、車の往来が激しかったが、各々入り乱れながらも、自然となるがままに通行できていた。





主要な道路でも、計画停電のせい、ほとんど信号機がなく、各交差点では警察官が交通整理をしていた。

中央分離帯は、可動式のブロックや柵により仕切られていた。(下写真)



市内の電線は、酷いタコ足配線であり、これも計画停電のなせる技なのか、危険な状態が放置されているようだ。(下写真)



かつては泳げたという川も、人口増加に追いつかないインフラ整備の遅れから、現在は泳げないほど汚れた状態となっている。

短期間で、しかもネパールの首都カトマンズの、ほんのわずかな一面を見ただけであるが、電力不足、水不足、社会的インフラ整備は遅れているものの、人々は明るく、まだまだ素朴な感じがした。

今後も、NPO-WFAO は、ネパールを始め、アジアのアマチュアオーケストラ活動を支援し、世界のアマチュアオーケストラと交流を深め、情報の発信・共有により、音楽活動に貢献していきたい。

「ナマステ」

(記・NPO-WFAO 理事 平松 治生)

## ネパールを訪ねて

NPO-WFAO 理事 森下 喜久子

### ネパールへ楽器の寄贈

2014年4月17日から21日にかけてNPO-WFAOスタッフ4人とともにネパールに生まれて初めて訪れました。このネパール訪問のきっかけは、2012年8月に日本の清水市で開催された世界アマチュアオーケストラフェスティバルイン静岡にあります。ネパールの地に、2010年にクレッシェンドインターナショナルオーケストラを立ち上げたビドゥアさんが、ベバーレンさん(WFAO副委員長)のベルギーの音楽家グループに支援を受けてフェスティバルに参加されたことにより始まりました。同じくこのフェスティバルにドイツからご参加されたリュディガーさん(チェロ奏者)がビドゥアさんにネパールの音楽状況を尋ねたところ、チェロがなくて困っているという話を聞き、彼女はドイツに帰ってから所属するアマチュアオーケストラのメンバーに寄付を募り、ネパールに楽器を寄贈されたそうです。世界フェスティバルが終わってから手紙やメールのやりとりをしているうちにこの事実を知り、日本のNPO-WFAOとしても国際貢献をしようという機運が高まりました。

今年の2月にホームページを通じて、「使わなくなった中古楽器をネパールの子供達に送りませんか」と呼びかけをしましたところ、JAO会員のご協力により、分数バイオリン5台、フルサイズのバイオリン4台、ビオラ1台計10台の楽器が集まりました。NPO-WFAO負担で弦や弓の毛の張替等楽器の調整をし、また松脂やスペア弦等もご寄附していただき、一部は購入をしてネパールまで運ぶこととしました。またネパールからの要望で、バイオリンの修理の時に必要な魂柱を立てる道具を購入し実際に直し方を伝授してきました。

また東京フィルハーモニー交響楽団のフルート奏者であるさかはし氏が個人的に集められたリコーダー250本をカトマンズの学校や孤児院に寄贈されました。

これらの楽器寄贈について、在ネパール日本大使館にも多大なるご協力をいただきました。

### ネパールでのコンサート

ネパール訪問の計画をたてている途中、今年の4月にネパールで開催されるコンサートに協力するために、世界フェスティバルにもご参加下さったWFAO関係者がネパールに集まるという話を聞き、そのコンサートにあわせて私達も訪問することとしました。弦楽器中心の編成であることから、平松さんと森下も一緒に演奏に参加することになりました。

コンサートに参加するといっても、楽譜が送られてきたのが出発一週間前、ボーイングもついていません。さすがに焦りましたが、何とも仕方がありません。曲目は、モーツァルトやバッハ、ピバルディも一部ありましたが、ネパールの曲を編曲したものが多く、実際には前日の練習時に配布された楽譜もありました。

不安を抱えながら練習会場に出向くと、ネパールの団員の方たちが一生懸命話しかけてくれるのです。残念ながら英語もろくに話せない私は、会話も十分にできず申し訳ない気持ちでいっぱいでしたが、その雰囲気には気分が明るくなりました。

練習は大変です。練習会場は、とても古いですが、シャンデリアがついているような部屋です。でも電気がつくことはなく、暗くなってしまっただけで楽譜が読みづらくなるまでやりました。また明日



のコンサートのために、指揮者が舞台上に登場したら起立し、指揮者が礼をしても団員はお辞儀をしてはいけないなど、コンサートのマナー指導まで海外参加者の指導のもと行われました。

コンサート当日のリハーサル、午後1時開始予定のはずでしたが、実際にはかなり遅れました。そんな状況を焦った様子でいるのはどうも日本人だけのようにも見えます。コンサートホールといっても多目的ホールのため、どのパートにもマイクが立てられ、リハーサルはマイクテストが中心。せっかく良い音がしているのにこんなに音を拡声しなくても思っているうちに時間となり、リハーサル終了。

着替えをしたいと思っても楽屋がわからず困っていた私をかわいい女性団員が案内してくれました。そこはトイレでした。とにかく着替えを済ませ、彼女にお礼を言い、日本に来たことがあるかと聞いたら、行ったことはないけれどぜひ一度行ってみたいという返事でした。ネパールの人は親日家の人が多いと聞いていましたが、みんなとても親切で気分の良い人ばかりです。

コンサートがはじまり着席したら後ろの優しい男性団員が、私に「頑張ろう。(たぶんそのような意味。)」と声をかけてくれました。イタリアからみえたナポリさんが、みんなに「スマイル、スマイル。」と言っていました。この日本から遠く離れたネパールの地で、昨日知り合ったばかりの人たちと一丸となって今から一緒に音楽をやれる喜びで私は胸がいっぱいになりました。昨日変更したばかりのボーイングではみんな残念ながら合わせることはできませんでした。でもみんなで一生懸命一つのコンサートを成功させようという気持ちが、何と美しい響きをつくることか。音楽の素晴らしさは、優れた音楽技術だけではないということをもっと体験した瞬間でした。

指揮者の山路譲さん(NPO-WFAO 理事・台湾在住)に、音楽大臣の Gurung 氏(今月でその立場を引退されるそうです)が「27年間、この国の音楽を支える立場にありながら、最後の最後に皆さんのお力で、本当のオーケストラをネパールで聞くことができた。」と涙目で語ってくださったそうです。

またこのコンサート開催にむけて、ネパールの地元企業の力強いバックアップがあったそうです。そしてコンサート終了後、今後もオーケストラへの支援を継続することを約束してくださったそうです。

## ネパールで学んだこと

2月にネパールに行かれた方から、「カトマンズに行くならマスクを持って行ったほうが良いですよ。」とアドバイスを受け、半信半疑で持って行きましたが、カトマンズの道路状況をみてその理由はわかりました。まだ十分に舗装されていない道路に、車とバイクと人と時には動物が混然となっていて、大気汚染が深刻な問題になっていました。狭い道路では車は常に危険を避けるためにクラクションを鳴らしながら走っています。広い交差点には信号機がついているところもありますが、実際には可動していません。でもなぜか事故は起こらないようです。ガソリン代がとても高騰していてそれもなかなか手に入らず、ガソリンスタンドの前には長蛇の車の列。電力不足で、12時間の計画停電。私達の泊まったゲストハウスは、自家発電をされていていつも温かいシャワーを浴びることができましたが、他のゲストハウスでは、シャワーを使おうとしたらいつまでも水であったという話も聞きました。

でもそんな中でも、人々は明るくたくましく生きているのです。音楽に憧れをもちオーケストラで仲間とともに演奏をしたいという希望を持っています。海外に行きますと、日本の文化程度の高さをあらためて感じ日本で生活できることに感謝いたしますが、人の生命力の強さを勉強いたしま

す。幅広い人間性を養うためにも、若い方々にいろいろな国を訪れてほしいと心から強く思いました。

コンサートに出演したネパールのメンバーの中に、結婚されていてご自分の子供さんがいらっしゃる方たちでしたが、その子供さんも今バイオリンやチェロを習っているそうです。ピドゥアさんの話によると、オーケストラのメンバーが青少年のための音楽教育に真剣に取り組んでいるそうです。また最近では、クラシック音楽に関心を持てるように多くの学校で弦楽器の授業がとりいれられているそうです。きっと私達やリュウディガーさんたちが運んだ楽器で練習した子供たちが、ますます素敵なオーケストラをつくり、ネパールにクラシック音楽が根付くこともそんなに遠くない日に訪れることでしょう。

一日だけの観光でしたが、雄大なる大自然と、世界遺産である建築物をみてネパールの悠久の歴史の中で築かれてきた豊かな伝統文化に触れることもできました。ネパール独自の素晴らしい文化・芸術も大切にすると同時に、未来を担う若者たちの手によってオーケストラ音楽がさらに発展することを願いながら帰途につきました。

このネパールへの楽器寄贈にご協力いただきました方に心からお礼を申し上げますと同時に、現在 WFAO という組織を通じて、「音楽の泉」が世界中に広がりを見せています。国籍、人種、宗教などさまざまな違いを乗り越えて、楽譜と楽器さえあればすぐ仲間として関係をむすぶことのできるオーケストラという機能の素晴らしさを多くの方と共有をし、＜仲間と共鳴したいという人間的音楽的なつながりによって、地球が優しく暖かい曲を交響する日＞がきますよう、NPO-WFAO として音楽活動を通じての交流の発展に貢献していく所存ですので、ますますのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。